

住民参加型高齢者支援等推進事業

住民参加型意見交換会

結果報告

平成25年3月

赤井川村

目次

○施策検討結果	1
1. 住まいの確保	
①公営住宅等	2
②在宅での生活	3
2. 交通手段の確保	5
3. 相談体制の整備	6
4. ボランティア・生活サポーター	8
5. 高齢者の情報把握	10
6. 健康づくり	12
○意見交換まとめ	14
○参加者・参加職員の感想・意見	20
○事業の様子	22
○資料	25

○施策検討結果

- 参加者からの意見を6の項目に分類

1. 住まいの確保 ①公営住宅等 ②在宅での生活
2. 交通手段の確保
3. 相談体制の整備
4. ボランティア・生活サポーター
5. 高齢者の情報把握
6. 健康づくり

- 参加者から上がった主な意見

- 今後の取り組みと開始の年度

取り組みを色で分類し、取り組み開始年度を記載

●=協議、調整、検討

●=ニーズ把握、アンケート、調査

●=事業実施

- 各種計画との関連

意見交換会の内容と、下記計画等の関係性

第三期赤井川村総合計画（平成18年度～平成27年度）
赤井川村健康づくり計画（平成16年度～平成25年度）
赤井川村高齢者保健福祉計画（平成24年度～平成26年度）
赤井川村おもいやりビジョン（平成23年度～平成27年度）

1. 住まいの確保

①公営住宅等

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> 古い住宅が多くバリアフリー化されていない 施設入所を考える前に、生活できる場所が必要 市街地の公営住宅に高齢者が増えている 村民の所得に見合った入居料で入れる住宅（月6万円の年金で入れる） 地域の間人関係を保ったまま、住み替えができればいいのではないか プライバシーが保たれた共同住宅があれば 冬期間は村外の子の家に行く。冬期間のみ市街地で居住できないか 高齢者と若い人が一緒に暮らせる集合住宅が必要 今ある古い村営住宅を改築して、スペースを取りバリアフリーにしてはどうか

検討結果	H24	H25	H26	H27
◎住民意見交換会で上がった意見を担当課へ提供する	●			
◎住民ニーズや高齢者の状況などを把握できるよう、関係機関と協議する場を設ける	●※	→		
◎新築住宅や改修など、様々な住宅に関する補助事業の把握をするため、関係機関が協議を行う場を設ける	●※	→		

●＝協議、調整、検討 ●＝ニーズ把握、アンケート、調査 ●＝取り組み実施

※H25.1.31 建設計画検討会を実施。

住民ニーズからかけ離れないよう現況把握に努める。各課の意見を集約する場を設け、引き続き協議を継続する。

各種計画の関連性	総	健	高	お
○住みよい住環境の整備 ・村内に居住を希望される方や、現在村内に居住し住宅が老朽化している方が快適に過ごせる住宅を確保し整備を推進します。また、道路や下水道等の生活基盤の整備を進め、快適な住環境の確保に努めます。	● P26			
○住宅の整備 ・時代のニーズにあった公営住宅の建設を推進します。 ・高齢化社会に対応した高齢者世帯向け公営住宅の建設を推進します。 ・住宅のバリアフリー化を推進します。 ・時代の要請に合わせた既設公営住宅の環境改善を図ります。	● P52			
○高齢者向け公営住宅の建築 ・高齢者住宅建築を検討します。	● P64			
・住宅を必要としている方に対し、住宅を貸与しその生活の安定と高齢者福祉の向上に寄与することを目的に、公営住宅等の整備に連動させて、高齢者向け住宅の整備を検討します。			● P17	
・高齢者ケア付き集合住宅等の確保～一般入居者と混在が可能な高齢者集合住宅や24時間のケア対応が可能な集合住宅の整備をめざします。				● P5

総＝総合計画 健＝健康づくり計画 高＝高齢者保健福祉計画 お＝おもいやりビジョン

各種計画の関連性	総	健	高	お
○赤井川地区市街地の冬季生活路線の安全確保を図るため、関係機関に要請するとともに、地域ぐるみの除雪活動を支援します。	● P31		● P15 P16	
○村立診療所を中心に地域医療体制の充実を図り、住民が安心して暮らせる医療の提供に努めます。 ○高齢者が住み慣れた地域で、健康を維持し過ごすための知識の普及や身体機能の維持向上の充実を図るための支援体制の充実をめざします。 ○地域医療体制の充実 ○広域医療機関との連携強化	● P32 P62			● P5
○住民参加型行政の推進 ○誰でも発言できる参加型の広聴活動促進 ○村政懇談会や住民説明会等の開催	● P34 P79			● P5
○生涯を通じた幅広い学習機会の提供を図ります。 ○社会教育団体等への支援	● P73		● P6	
○食生活の改善を中心とした健康づくり運動の推進 ・食を中心とした食育等食の健康づくり運動を支援します。	● P61			
○高齢者と地域社会の交流拡大 ○老人クラブ活動の育成強化	● P64	●	● P6	● P4
○高齢者事業団 高齢者の就労は経済的な理由だけではなく、社会参加や生きがいづくりの目的がある。 ○生きがいデイサービス事業 ○赤井川村保養センター（赤井川カルデア温泉）福祉パスポートの交付		●	● P6 P15 P16	
○高齢者の日常生活活動拠点の確保 本村中心部となる十字街周辺の空き店舗等を活用し、高齢者が日常的に交流できるサロン等の開設を目指します。				● P4

総＝総合計画 健＝健康づくり計画 高＝高齢者保健福祉計画 お＝おもいやりビジョン

2. 交通手段の確保

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> • 何をするにも足がない • 温泉バスに乗っている人が少ない • コミュニティバスのような村内を自由に移動できる手段があれば、離れた地域からも、温泉だけではなく、診療所や買い物へ行くことが可能になる • 温泉バスを地域毎に週2回くらい自宅近くまで送迎してくれれば • 村内で移動を自由に出来るようにしてほしい（温泉だけではなく買い物も出来れば） • イベントがあるとき送迎があれば • 車がない人は置き去りにされている • 介護保険以外の外出支援があれば • 社協の送迎サービスがある

検討結果	H24	H25	H26	H27
◎コミュニティバスやデマンドバスの導入が可能か、また、高齢者の利用ニーズなどの調査を行う。		● ●	→	

●=協議、調整、検討 ●=ニーズ把握、アンケート、調査 ●=取り組み実施

各種計画の関連性	総	健	高	お
○高齢者や学生の足となる定期路線バスの運行確保を図るとともに、コミュニティバスの運行についての検討を進めます。	● P39			
○定期路線バスの運行確認 <ul style="list-style-type: none"> • 村内外との交通アクセスの確保のため、バス運行増便と利用動向に応じた運行ダイヤの編成を要請します。 • バス運行助成の継続による生活路線の確保に努めます。 • コミュニティバスの運行についての調査を行い、事業化への検討を進めます。 	● P39			
○赤井川カルデラ温泉無料送迎バスの運行 <ul style="list-style-type: none"> • 毎月、第2・第4木曜日に村内一円の停留所を巡る、赤井川カルデラ温泉行きの無料送迎バスを運行します。 			● P16	
<ul style="list-style-type: none"> • 村が進める健康づくり計画に基づく健康教育など各種プログラムへの参加しやすい環境（送迎サービスの充実等）を整えます。 				● P4

総=総合計画 健=健康づくり計画 高=高齢者保健福祉計画 お=おもいやりビジョン

3. 相談体制の整備

主な意見

- 気軽に相談できる場はサークルなどであるのでは？
- 気軽には行かないが相談体制はある→健康支援センター、デイ、社協
- 信頼関係がないと、相談はしない。相談を受ける人の顔を売ることが大切
- 高齢者は広報を全て読むことが難しい。どこへ相談したらいいかわかりやすく周知
- 相談してもどこまでやってもらえるかわからない
- 相談者は窓口までは来られない。待っているだけでは相談は来ない。自らの発信は難しい
- うわさ、中傷で傷つく人がいる。守秘義務が守られているか
- 包括は把握されていない
- 高齢者は困りごとがあっても、直ぐに動く（相談する）ことはできない
- 困りごと、悩み、特に経済的なことは相談しようとしにくい（しづらい）
- 地域の民生委員が困りごとの相談を受ける体制づくり
- カルデア温泉以外にも集まれる場所があれば

検討結果	H24	H25	H26	H27
◎「立ち寄りづらい」「わかりづらい」を解消するため、相談窓口の一覧や、相談の手順がわかる図などを作成し、誰もが相談窓口を知る方法を整える。		●	■	→
◎カルデア温泉、赤井川診療所、健康支援センター、体育館など、高齢者が行き慣れた場所に掲示コーナーを設け、行事やお知らせなどを見やすくPRできるよう、関係機関と協議する。		●	■	→
◎日々の生活の中で、高齢者の困り事が早期に見えよう、「見守り」「気づき」「傾聴」などを学べる機会を提供する。		●	■	→
◎地域と相談窓口をつなぐ『地域の相談役』について、活動のバックアップを行うと共に、地域に出向いての情報収集に努める。	●	■	→	
◎健康支援センターがより気軽に立ち寄れる相談窓口になれるよう、空間づくりを整える。	●	●	■	→

●=協議、調整、検討 ●=ニーズ把握、アンケート、調査 ●=取り組み実施

各種計画の関連性	総	健	高	お
○保健事業推進の拠点施設整備 <ul style="list-style-type: none"> 健康情報発信の場としてに充実を図ります。 気軽に来所でき、交流の場、情報交換の場として充実を図ります。 ○健康づくり意識の普及と高揚 <ul style="list-style-type: none"> 悩みを相談できる場の提供や専門機関の情報を提供します。 ○相談指導体制の充実強化	● P60			
○シルバーハウジングに居住する高齢者に対し生活援助員を派遣し、その在宅生活を援助します。 ○成年後見制度利用支援事業			● P20	
○相談体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターは関係機関と連記を図りながら情報の収集に努めると共に適切なコーディネートに努めます。 社会福祉協議会の地域福祉権利擁護事業の活用や、小樽・北しりべし成年後見センターを窓口とした成年後見制度の普及に努めます。 				● P5

総＝総合計画 健＝健康づくり計画 高＝高齢者保健福祉計画 お＝おもいやりビジョン

4. ボランティア・生活サポーター

主な意見

- ボランティアをするとポイント制で蓄え、助けが欲しいときに使える
- 人のために動くことが元気でいられる秘訣。生活全体の応援団があれば（制度に囚われないような支援、見守り）
- 区会長単位での見守り隊。町内会ごとの見守り、声かけ
- 共に負担にならない程度の見守り
- 働ける場所 ボランティアだけではなく収入があれば励みになる
- 高齢者が役に立っていると思える
- ボランティアが必要な人と役に立ちたい人をつなぐ何か、人材
- ボランティアの後継者づくり、人材育成
- 高齢者が発揮できる得意なことを活かせるといい
- 資格やボランティアしたことがあるか特技を登録してもらう
- 地域は地域の人が支える（守る）

検討結果	H24	H25	H26	H27
◎有償ボランティアやボランティアポイントについて、村の実情に合わせた導入が可能か調査する。		●		
◎支援が必要な人と支え手をつなぐ役割の構築を検討する。		● ●	→	
◎ボランティア1人にかかる負担が軽減できるよう、新たな支え手の養成を行う。			●	→
◎イベント送迎を行うボランティアの負担が軽減できるよう、送迎の確保、または車両の確保が可能か調査する。		● ●	→	

●＝協議、調整、検討 ●＝ニーズ把握、アンケート、調査 ●＝取り組み実施

各種計画の関連性	総	健	高	お
○住民 1 人ひとりが助け合いの気持ちを持ち、「やさしさ」に満ちた「ふれあい支えあう」福祉の充実をめざします。	● P32			
○住民相互のふれあい意識の高揚 P63 ・住民がともに支え合うことにより福祉をより良いものとするための普及啓発を行います。 ○社会福祉協議会と民間団体の連携 ・社会福祉協議会と民間団体の連携による一体的なボランティア活動の推進を図ります。 ○ボランティア活動体制の組織化 ○自主的な活動の推進	● P63			● P4
○社会教育団体等への支援 ・リーダー養成のための研修機会への参加を奨励します。	● P73			
○老人クラブ「赤井川村悠楽会」 ・教養の向上や健康の増進、レクリエーション、ボランティア活動、地域社会との交流などの活動をしています。			● P6	● P4
○ボランティア活動の充実強化 ・おもいやりとふれあいを大切にする活動の展開 高齢者地域ケア推進事業の電話サービス事業以外に、定期的に直接お宅に訪問し面談による「ふれあいボランティア」を実践する体制づくりを目指します。 ・コーディネート機能の強化と情報の受発信 社会福祉協議会がボランティア支援を必要とする人とボランティア活動に関する住民周知や講演会の開催等について支援協力すると共に、組織の強化育成を支援します。				● P4
○地域での役割を果たす ・地域の活動に参加している		●		● P4

総＝総合計画 健＝健康づくり計画 高＝高齢者保健福祉計画 お＝おもいやりビジョン

5. 高齢者の情報把握

主な意見

- ・サービスを上手に利用できている人と、使用していない人の差が大きすぎる
- ・冬場は家にこもってしまうので心配
- ・地域住民と行政との連携がない
- ・保健師さんなら聞きやすいけど、一般の人は難しい
- ・区会が一番。出やすいので、高齢者の意見も聞けるのではないか
- ・心配な人のことを誰に話したら良いのか
- ・情報が統合される仕組みがない
- ・気づき、行動、小さな変化を見逃さない
- ・地域で困ったことがあったとき、誰に相談すればいいか決まっている。皆が窓口を知っている
- ・区会からちゃんと上まで（窓口まで）つながる体制がある
- ・高齢者の話を聞く機会を持つ
- ・町内会区会の活動がどれ程されているのか把握が必要
- ・孤独死をさせない

検討結果	H24	H25	H26	H27
◎高齢者の情報収集・管理・活用ができるよう、情報の流れを可視化する。また、その他要援護者等の情報についても、災害時や緊急時の対応などについても配慮が必要なことから、関係機関や地域との協力を図る。		● ●	→	
◎高齢者の異変を早期に発見・対応できるよう、関係機関、団体、民間事業者、地域住民が協議できるよう、調整を行う。		● ●	→	

●=協議、調整、検討 ●=ニーズ把握、アンケート、調査 ●=取り組み実施

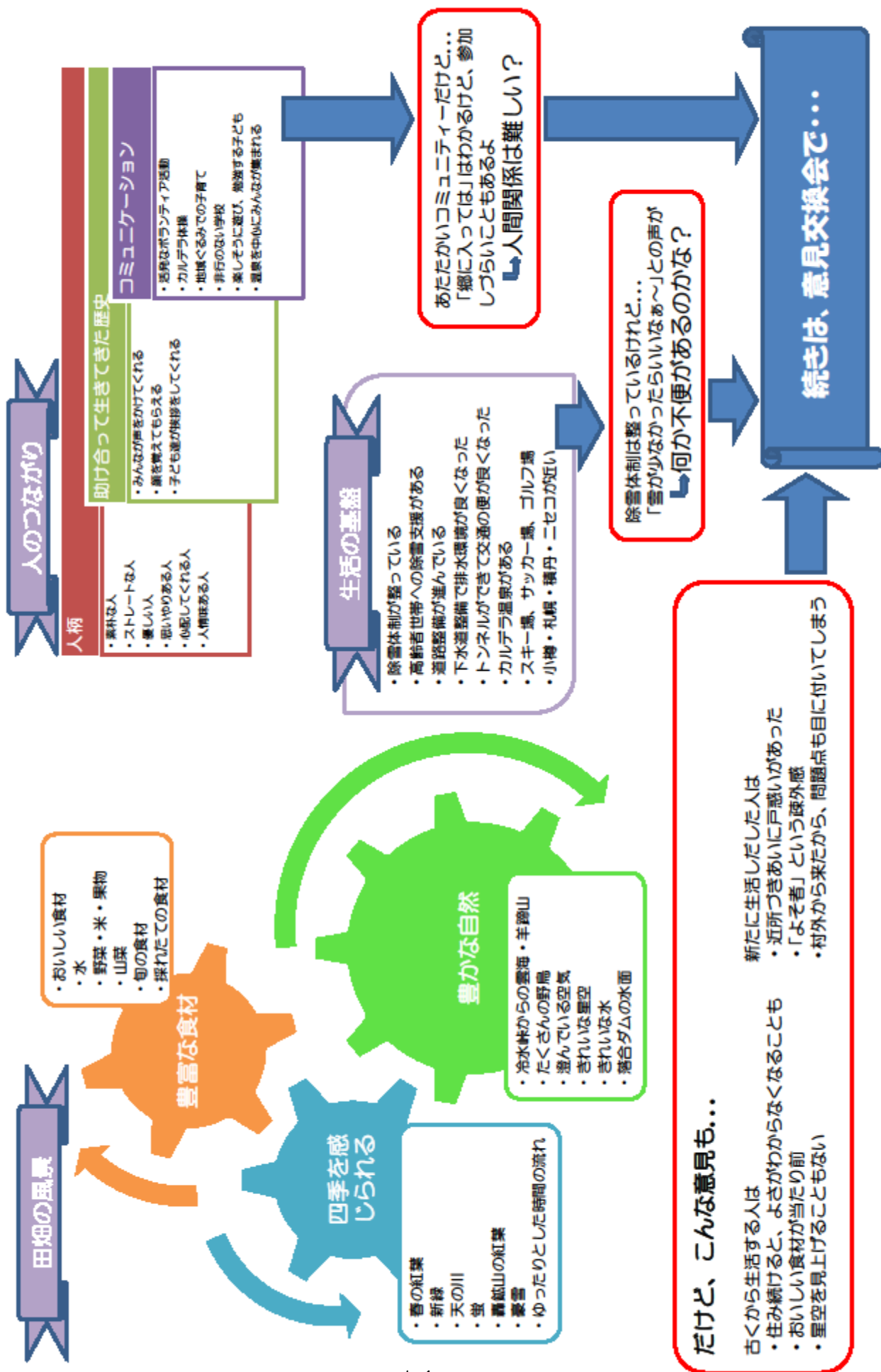
各種計画の関連性	総	健	高	お
○広聴活動の充実 ・住民の声を聞く場としての「村政懇談会」や「住民説明会」の開催を積極的にを行います。また、ホームページの掲示板の活用や、アンケート調査等、広く誰にでも発言でき、参加できる広聴活動を進めます。	● P28			
○高齢者家庭、ひとり親家庭、障害者家庭等の実態把握の充実 ・社会福祉事務出張所・社会福祉協議会・民生委員と連携をとり、世帯の状況を把握します。	● P68		● P19	● P4
○老人クラブ「赤井川村悠楽会」 ・活動の場を通じてのニーズ把握			● P6	● P4
○支え合いマップの整備 ・ひとり暮らしや夫婦単独世帯の高齢者の住宅位置や日常の活動状況、隣近所の友達や通院先など、最低限の情報をケアに関係する部署が把握しておくことにより、緊急時や介護などの必要が生じた時、素早く対応できるよう関係機関の協力によりマップを整備します。 ○地域資源を活用した支援ネットワークの充実 ・見守り、声かけなど地域ぐるみの活動で、初期支援体制を充実させ、適切なサービスに結びつけます。				● P4
○認知症高齢者対策の充実 ○虐待防止対策の充実 ○メンタルケアの充実				● P5

総＝総合計画 健＝健康づくり計画 高＝高齢者保健福祉計画 お＝おもいやりビジョン

各種計画の関連性	総	健	高	お
○健康状態の把握と指導・相談体制の強化 ・住民検診をはじめとする各種検診事業の受診率向上に努めるとともに、疾病予防のための情報提供や指導・相談体制の充実を図ります。	● P27		● P17	● P4
○高齢者が住み慣れた地域で、健康を維持し過ごすための知識の普及や身体機能の維持向上の充実を図るための支援体制の充実をめざします。	● P32		● P17	● P5
○健康づくり意識の普及と高揚 ・住民が主役となって健康づくりができる「赤井川村健康づくり計画」を推進します。 ・目標に沿って、できることから無理なく、楽しく続けられるように健康づくりを支援します。 ・健康づくりの情報（運動・栄養・休養・こころの健康・アルコール・たばこ等）を提供します。 ・交流の場を提供します。 ・健康状態を確認できる機会を提供します。 ○健康・体力づくり活動組織の充実 ・保健推進員や食生活改善推進員の資質向上のための、研修機会の充実を図ります。 ・地区ごとに実施している健康づくり活動を支援します。	● P60 P61	●		● P4

総＝総合計画 健＝健康づくり計画 高＝高齢者保健福祉計画 お＝おもいやりビジョン

語ろう、赤井川村自慢！ (H24.9.4 横瀬意見交換会)



シート1 高齢者の元気で楽しい生活(介護予防・居場所)について (H24.9.20 第1回意見交換会)



めざす姿

気軽に立ち寄れて、みんなに会える
行くも楽しくて、活躍できる場所がある

その他の魅力的な意見

103歳の元気な人がいることは嬉しいこと!! 高齢者の誇りやイメージをつくらない!! 高齢者自身も積極的に!! 高齢者が得たいものが二重に!! 千原以外で拠点となる場所の確保!! 得意な場所を!! カルテラ公園には家族連れが来ている!! 子どもの遊べる場所の確保!! ドッグランがある!! 『食のこ王国 (仁太郎)』のような楽しめる場所があればいい!! 地域のよさを活かす!! 新たな物も必要 (バチンコ、キャバレーとか)!! 温泉の宿泊家の空きがチャンス!! ゲートボールはバタンパングにも使える!! パークゴルフをしない人も参加の機会がある!! 人口減少の歯止めにも寄与する!! 新たに村長になった人の方を話そう!!

シート2 住まいの確保について (H24.10.4 第2回意見交換会)

現在の住居に住み続けるには？

- 住宅の老朽化** 段差が多い／除雪が大変／火の管理が不安／高齢者のみの世帯には広い
- 交通の便が悪い** 月2回の温泉バスでは足りない／買い物や病院に行くにも利用したい／バス停まで歩くのは大変
- 高齢者だけの生活** 村外に住む子ども達が心配する／介護サービスは希望があっても使えない／できる限り自分たちだけでいく／人に迷惑をかけたくない

地域で取り組むこと

制度の垣根を越えた生活支援の取り組み

- 生活全体の応援団**
 - ・高齢者本人や家族が気軽に相談でき、頼れる人がいる
 - ・ボランティアポイントの導入など、気兼ねなく困りごとを頼める取り組みがある
 - ・既存の配食サービスやヘルパーとは別の、生活を丸ごと応援してくれる取り組みがある
- 村内を自由に出入りできる手段**
 - ・足が不自由になっても、自宅の近くまで迎えがあれば外出できる
 - ・遠方に住んでいても、温泉は週2回以上入りたい
 - ・運転をしなくても、家族や周りの人に遠慮することなく買い物や通院をしたい
- 見守り体制**
 - ・異変を早期に見出し、万が一の場合に備えた支援体制がある
 - ・日頃から、ご近所や地域のひととの交流がある
 - ・夜間診療や入院にも対応した医療体制がある

その他の能力的な意見

1 題に高齢者が住み、上層に若い人が住める集合住宅があれば、世代間交流ができて、若い人にはボランティア精神が生まれ、高齢者は子どもを見て元気になれるのでは
 ● 行政が初めからバリアフリー住宅を建てれば高齢者が帰る必要がないかも ● 国民年金の月6万円では、シルバーハウジングに入りたくても入れない ● カルテラ温泉に住宅を建てて、夏は村外からの働き体希望者を受け入れ、冬は温泉から離れた地域の高齢者が住めるようにしたらどうか ● 今までの近所づきあいを保つには、今住む地域に高齢者向け住宅を建てればいい ● 温泉バスが月2回では少ない、近くの人は毎日行けるのに、デイスーパーの車を送迎車に利用して、地域ごとに週2回は行けるようにしてはどうか ● 除雪サービスは申請ではなく、見回りで入らないか ● 排水溝があれば、除雪が楽になる

高齢者の住み替えとは？

- 村営住宅** 飯友団地（シルバーハウジング）は家賃が高い／新住宅は古すぎる／高齢者向けに建築されていらない／風呂のない住宅がある
- 選んで暮らす住宅がない** 村営住宅は市街地に集中しているため、引っ越しする際に入居先がない／高収入を考えると生活できる場所がないから、移住施設に入る
- 高齢者のニーズ** 近所づきあいを大切にしたい／子どもや周囲の人に迷惑をかけたくない／高価化した生活を家賃でカバーできない

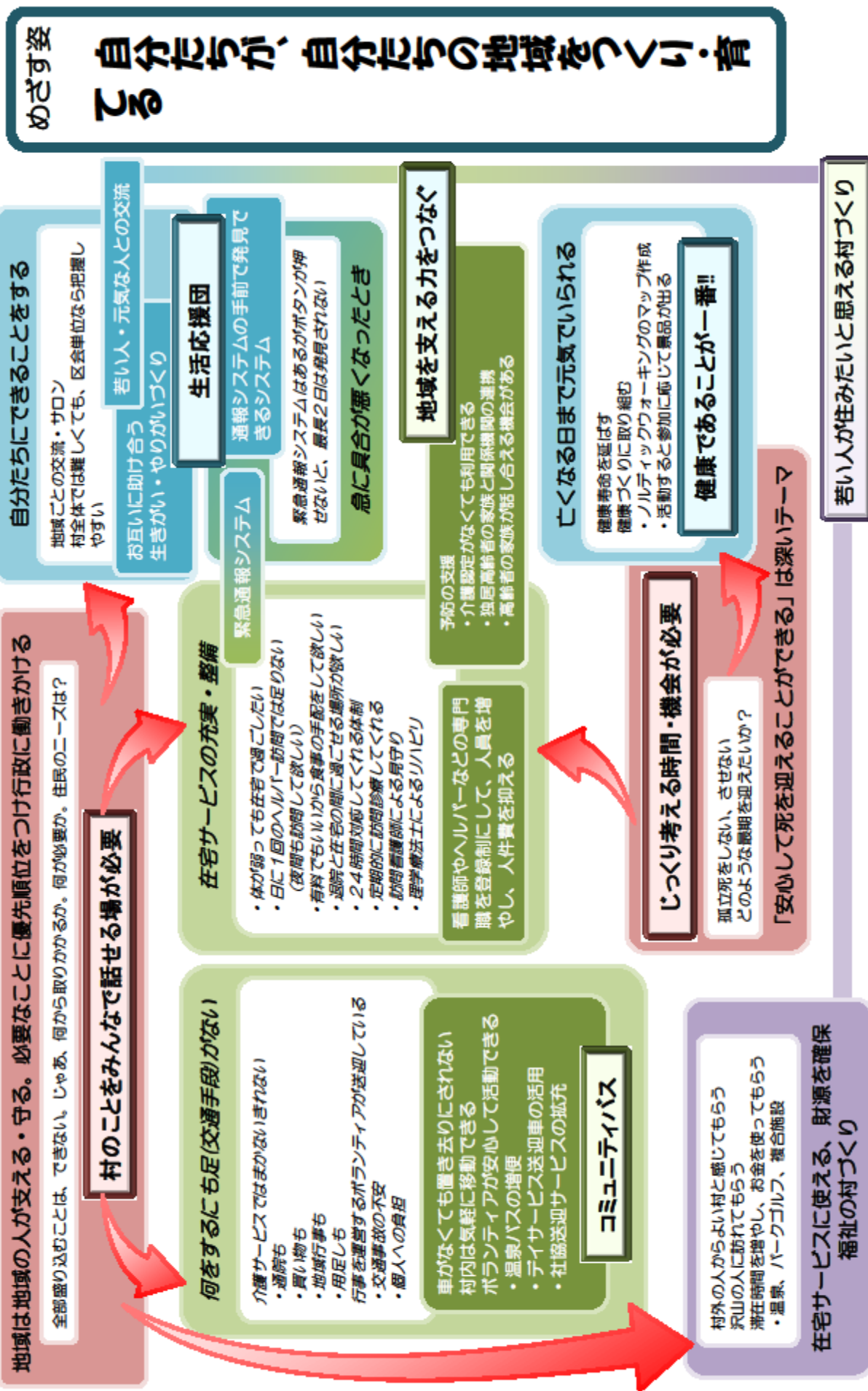
高齢者の状況に合わせた住みやすい住宅

- 高齢者向け住宅**
 - ・年金生活者が負担にならない家賃設定
 - ・談話室や食堂など入居者が気軽に集まれる場所がある
 - ・新たに建てる村営住宅は初めからバリアフリーにしておく
- 村営住宅の活用**
 - ・今ある古い村営住宅は改築してバリアフリー化する
 - ・様々な世代が入居できる集合住宅
 - ・「農作業の時期だけ」や「冬期間だけ市街地」など、目的に合わせて入居ができる住宅がある
- 選択の支援**
 - ・地域ごとに高齢者の状況に合わせた高齢者向け住宅がある
 - ・下宿や支援ハウスなど、直ぐに「施設入所」「入院」とならないための住まいがある
 - ・者後に備え、住み替えや住宅改修についての情報が得られる

めざす姿

自分に合った「家」で「近所づきあい」を保ち、村内で一生暮らせる

シート3 生活支援・在宅サービスの確保について (H24.10.17 第3回意見交換会)



めざす姿
自分たちが、自分たちの地域をつくり・育てる

シート4 相談体制の確保について (H24.10.31 第4回意見交換会)

「何でも気軽に相談できる」とは？

- ・身内以外の人に「何でも」は話せない
- ・どこに相談するかわからいとき、ますます思い浮かぶのは役場だけど、まったく「気軽」な雰囲気ではない
- ・できる限り自分で頑張りたいし、我慢する

- ◎高齢者には「健康支援センター」が相談窓口だと知られている
- ◎「社会福祉協議会」は配食サービス、電話ボランティア、除雪サービスなど、馴染みのあるサービスの窓口になっている

電話ボランティア

地域の見守り隊

配食ボランティア

各種ボランティア

サークルの仲間

昔は不便だったけど、お互いに助け合い、力を合わせて地域をつくってきた。その『土台』は今でも村にあると思う。

本人・家族

民生委員

近所の人

生活応援団

- ・個人情報保護法や生活の移り変わりで、一歩ふみこむことが難しくなってきた
- ・「見守り」が「見張り」にならないよう、人の距離感が難しい
- ・気づいたことをどこに伝えたらいいかわからない

- ・できる範囲のことをする
- ・何気ない声かけや、あいさつはできる
- ・踏み込み過ぎない『お節介り』ができたら

- ・役場は遠いし、気軽に立ち寄って相談できるところではない
- ・お役所言葉が難しく、わかりづらい
- ・相談窓口がどこにあるのかわからない
- ・行き慣れた場所、行きやすい場所ですら相談したい
- ・わかるように、答えてくれる
- ・相談窓口が一目でわかる

温泉

診療所

ケアマネジャー

バス

宅配

郵便局

警察

消防

デイサービスセンター

ホームヘルパー

保健師

役場職員

介護サービス事業者

「地域を支える力」をつなぐ

地域包括支援センターって？

- ・どこにあるのかわからない
- ・何をやっているのかわからない
- ・そもそも知らない

- ◎日頃から、地域活動や仲間づくりを意識しておく
- ◎いざというときの相談先を決めておく

- ・噂や憶測に、傷つけられたら、もう相談したくない
- ・プライバシーが守られない
- ・放っておいて欲しい

- ・口が堅くて、信頼できる人に相談したい
- ・干渉は嫌だけど、声かけやあいさつはうれしい
- ・相談したことが解決される

- ・子どもや周りの人には迷惑をかけたくない
- ・隣近所が悪い
- ・相談というほどではない
- ・(介護保険ができてから、むしろ) 保健師やヘルパーが来にくれなくなった

- ・顔見知りだと話しやすい
- ・気兼ねなく話を聞いてもらいたい
- ・お宅訪問でないと、変化に気づけないこともある

ズバリ、PR不足耶

- ・「見守り」や「気づき」などの方法を理解する機会がある
- ・「成年後見制度」「認知症対応」「高齢者虐待」「権利擁護」など、学ぶ機会がある
- ・「仲間づくり」や「顔見知りづくり」など、人との交流を進めるための手助けがある

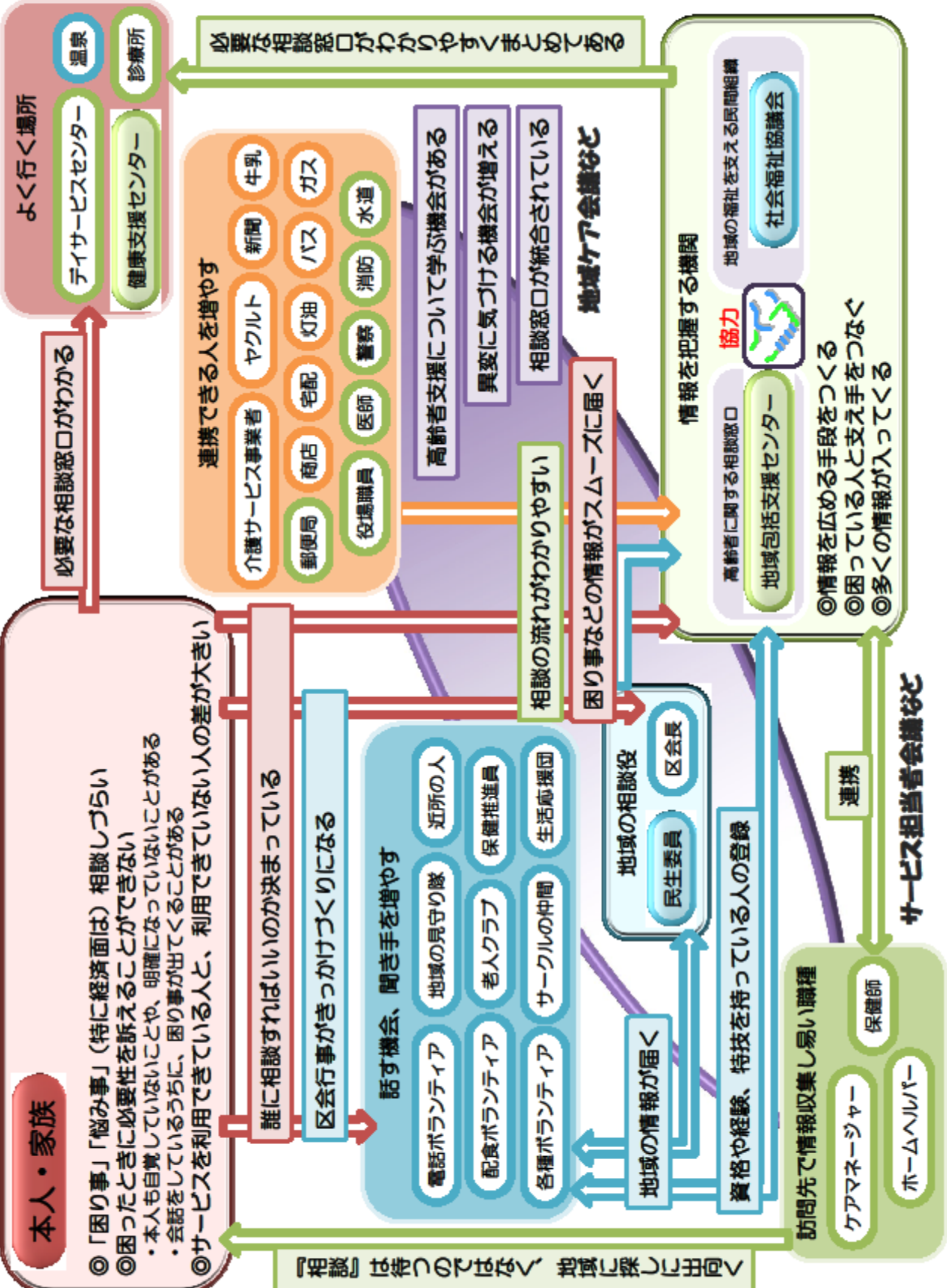
めざす姿

気軽に話せる、迷わず相談できる、お互いに負担にならない『お節介り』がある

シート5 高齢者の実態把握について (H24.11.14 第5回意見交換会)

本人・家族

- ◎「困り事」「悩み事」(特に経済面は)相談しづらい
- ◎困ったときに必要性を訴えることができない
- ・本人も自覚していないことや、明確になっていないことがある
- ・会話をしているうちに、困り事が出てくることもある
- ◎サービスを利用できている人と、利用できていない人の差が大きい



めざす姿
必要な情報が円滑に流れる仕組みがあり、地域の小さな変化に気づく、人のつながりがある

『相談』は待つのではなく、地域に探りに出向く

○参加者・参加職員の感想・意見

*意見交換会に参加して

- 住民の意見が行政の上の方に伝わったのがわかって良かった。
- 改善すべき点が見えてくるようになった。
- 自分自身の勉強になって良かった。
- ニーズの把握ができて良かった。
- 村の実態がわかって良かった。
- 今、やっとスタートラインに立ったところなのではないか。
- 現段階では、行政のやる気がうかがえる。
- 村社会課に意欲が感じられない。意見が施策に反映されていかないと思う。
- 話し合いの根本が話せなかった。人の話を聞くだけになってしまい、物足りなく感じた。
- 意見に対する回答がなかったのが残念だった。
- いろいろな会議に出席してきたが、やったという既成事実に使われ、利用されている気がしていた。今までは意見が反映された実感はなかった。検討後どうなったのかを報告していく姿勢が必要。
- 高齢者支援の取り組みを、高齢者だけではなく、様々な世代が意見交換できて良かったと思う。
- 地域での状況やニーズを直接聞いて良かった。

*今後もこのような機会があった方がいいと思うか

- 意見反映が見えれば自然に協力体制はできる。そのための意見交換会であったはず。
- この会を根付かせるためには、行政が本気になって、住民ニーズを一つでも二つでも取り組んでいける運営ができるかどうか、今までと同じことをやっているのでは次は出ない。
- せっかく夜遅くに時間を作ってもらったのだから、取り組みにつなげたい。それでこそやった意味がある。

*このような機会があったら、また参加したいと思うか

- 次も機会があったら参加したい。
- 取り組みへの協力はやぶさかではない。協力できる。
- 意見が反映されるのであれば、次回もぜひ参加したい。目に見えた方がやる気も出てくるし、参加者も増えるのではないか。
- できれば参加したいが、まとめるだけで「ハイ、終わりました」なら、(参加は)難しい。

*こんな風にやったら、もっと参加しやすくなるのではないか

- 時間帯が遅い分、もっと意見を反映させて欲しかった。
- 施策をどうしていくのか見えない中では、モチベーションが下がっていく。
- メンバーを一般公募にしてはどうか。団体の代表は発言の場が多いが、一般の人も発言できるようにできれば、生の声を聞いてよりよくなれるのではないか。
- 超高齢社会なのは、若い人が子どもを産み育てやすい環境になっていないから。高齢者の支援に偏るのではなく、各世代が一緒に生活していく、大きなビジョンで考えなければいけない。

*時間帯や頻度についてはどうか

- ちょうど良かったと思う。

*参加してみて、大変だったことは何か

- 具体的な話まで、展開できなかった。
- テーマが難しかった。
- 意見発表がプレッシャーだった。

*1回目と5回目ではグループに変化があったか

- 話し合いの結果に対して行政から回答がなく、施策に反映されていないので、モチベーションが参加する度に下がっていった。
- 最初は出た意見に対して話せない様子もあったが、3回目くらいからは、話が出るようになった。
- 顔見知りばかりなので、あまり変化はなかった。

*意見交換会に参加したことで、意識や生活に何か変化はあったか

- 社会資源の連携が足りないし、見守り体制の確立ができていない。できていないところは確立していかなければならないと思った。
- 各年代の意見が聞けて良かった。普段話す機会のない人の意見を聞いたのには、新しい発見があった。
- 昔は女性参加はタブーだった。女性の意見が出せる場ができて良かった。もっと女性の力を活用していったらいい。
- まずは、どんな支援が必要か、地域で情報交換ができていければ。

*施策検討結果に対する意見

- 実行できるものが見えてこなかった。行政にビジョンがないと思われる。
- 冊子は良くまとまっているが、現在の状況では無理ではないか。施策に反映されないと思う。
- 補助や助成があれば、地域でできることが増える。市街地の空き屋を利用したのサロンの開催もできる。集まる場所ができれば、生きがいづくり、交流、子育て支援にもなる。
- 人と人とのつながりを意図的に考えていくことが必要。
- これを現実化するの大変。行政が本気でやるのであれば、専門に携わる職員の増員が必要。
- ただニーズ把握・調査をしてみるとしても、他の仕事の片手間ではできないものではない。職員の増員は必要だと思う。
- 出された意見は既に総合計画や、他の計画に記載されているものが多い。作るときには、アンケートを採り、意見を聞いて立てているはず。議論をするだけでなく、どう具現化して実施していくか、これからが大事。
- ボランティアも重複してやっている状態だから負担が大きい。ボランティアの拡大が必要。女性の活動が活発な村だから、これからの世代も活動を続けてもらいたい。
- これからが本番。一つでも多くのものが現実化して行って欲しいと思う。

○事業の様子

・事前検討会



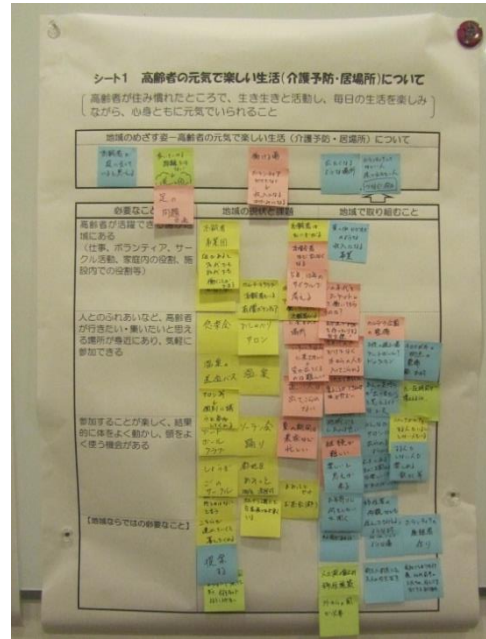
・高齢者を支える地域づくり講演会



・住民参加型模擬意見交換会



・住民参加型意見交換会（全5回）





• 施策検討会



• 住民結果報告会



資料

- これまでの経過
- 参加者の選出方法
- 参加者名簿
- 住民参加型意見交換会参加者アンケート結果
- 住民参加型意見交換会職員アンケート結果
- 住民参加型高齢者生活支援等推進事業計画書

○これまでの経過

開催年月		開催内容	参加人数
H24	8	事前検討会	17名
		高齢者を支える地域づくり講演会	13名
	9 ～ 11	住民参加型模擬意見交換会	17名
		住民参加型意見交換会（全5回）	14-17名
H25	1	施策検討会	14名
	2	住民結果報告会	11名

・住民参加型意見交換会事前検討会

対象者	村高齢者保健福祉計画推進委員、村職員、村社協職員、道職員
内容	事業の目的と概要説明。真狩村地域包括支援センター長による実施状況報告。
所要時間	120分

・高齢者を支える地域づくり講演会

対象者	一般住民
内容	地域包括ケアについての説明。先進地での取り組みの紹介。
所要時間	90分

・住民参加型模擬意見交換会

内容	参加者に対する地域包括ケアの説明と、グループワークの方法を練習。
テーマ	語ろう、赤井川村自慢！！
所要時間	90分

・住民参加型意見交換会

テーマ	第1回 高齢者の元気で楽しい生活（介護予防・居場所）について 第2回 住まいの確保について 第3回 生活支援・在宅サービスの確保について 第4回 相談体制の確保について 第5回 高齢者の実態把握について
所要時間	各90分

・住民参加型意見交換会施策検討会

対象者	村職員、村社協職員、道職員
内容	意見交換会から出された地域の課題や意見などを整理し、今後の施策について検討。
所要時間	210分

・住民参加型意見交換会住民結果報告会

対象者	意見交換会参加者
内容	施策検討会の結果報告と、意見交換会に参加しての感想と意見交換。
所要時間	90分

○参加者の選出方法

- ・村内の団体・サークル等に対し、所属する者の中から1名の推薦を依頼。
- ・後志生活・介護支援サポーター養成講座受講者6名に対し、参加依頼。

依頼団体
カルデアクラブ、赤井川村社会福祉（民生）委員協議会、赤井川村保健推進員協議会、赤井川村社会福祉協議会、赤井川村女性団体連絡協議会、グループホームあまらんず、赤井川村悠楽会、赤井川村食生活改善推進員会、赤井川診療所、シニアエンジョイクラブ、サークルひまわり、農業元気グループ Together、赤井川村商工会、配食ボランティアの会、北後志消防組合赤井川支署

○参加者名簿

- ・意見交換会

グループ	参加者氏名	参加職員氏名
A	竹下真盛、相馬雅志、木立真澄、吉川幸子、小林幸子、大石仁保子、指田良一 <small>（模擬のみ）</small>	高谷優香、上埜真樹子、坂口弘樹
B	佐藤新一、高木孝子、福田明美、安藤雅信、矢野一江、亀尾光男	須藤萌美、浅井妙子、小畑信幸／馬場希
C	中村明子、土居勢津子、藤井真実子、湯澤幸敏、濱崎幸光、田村武	石田敦史、相内勝、阿部政範、秋葉絵美／浪内淳子

- ・事前検討会

所属	参加者氏名
高齢者保健福祉計画推進委員	亀尾光男、安藤雅信、林秀明、小林幸子、田村武、中村明子
関係職員	上埜真樹子、石田敦史、坂口弘樹、馬場希、相内勝、須藤萌美、山口麻未、高谷優香
北海道後志総合振興局	佐々木晴子、浅井妙子、秋葉絵美

- ・施策検討会

所属	参加者氏名
社会福祉協議会	上埜真樹子、石田敦史
教育委員会	坂口弘樹、阿部政範
建設課	神信弘、須藤雅俊
社会課	小畑信幸、相内勝、須藤萌美、山口麻未、高谷優香
北海道後志総合振興局	佐々木晴子、浅井妙子、浪内淳子

○住民参加型意見交換会参加者アンケート結果

『安心して暮らせる地域作りシート』を利用した住民参加型意見交換会参加者の意識の変化を比較。

◎アンケートの方法

アンケート用紙保を渡し、意見交換会終了後、記入してもらおう形式で実施

◎アンケート期間

平成24年9月4日～平成24年11月14日（全6回）

意見交換会テーマ

模 擬 語ろう、赤井川村自慢！！

第1回 高齢者の元気で楽しい生活（介護予防・居場所）について

第2回 住まいの確保について

第3回 生活支援・在宅サービスの確保について

第4回 相談体制の確保について

第5回 高齢者の実態把握について

◎アンケート対象者数

各回出席者14名～17名（参加対象者18名）

◎アンケートの目的

意見交換会に対する意識や、地域包括ケアの理解について、参加者の変化を比較。

◎アンケート項目

すべて5段階で記入（低1～高5）

- ・何をするために集まったのかわかった
- ・地域包括ケアを理解できた
- ・うまく話せるか不安があった
- ・自分の思いを話すことができた
- ・もっと話したかった
- ・他の参加者の意見が聞けてよかった
- ・地域の現状と課題を再確認できた
- ・地域での取り組み・めざす姿をイメージできた
- ・意見交換は楽しいと思った
- ・次回も参加してみたいと思った
- ・村の良いところを発見・再確認できた（模擬のみ）

◎アンケート結果

地域包括ケアの理解 41.2% → 64.3%

地域での取り組み・目指す姿をイメージできた 64.7% → 85.7%

次回も参加してみたいと思った 70.6% → 28.6%

（詳細はアンケート集計表を参照のこと）

全体を通して、中間意見の『3』以上のポジティブな回答結果となった。

開始当初から、「地域の現状と課題」や「集まった目的」は理解されており、普段聞き慣れない「地域包括ケア」についても、回を重ねる毎に理解度が上がっている。

また、「地域包括ケアの理解」「もっと話したかった」「地域での取り組み・目指す姿をイメージできた」はテーマの違いによる影響と推測される。

「次回も参加してみたい」がポジティブな回答の減少からは、モチベーションの低下や継続して参加することの大変さがうかがわれる。

「うまく話せるか不安があった」については、通して35%が不安がある（4, 5）と回答している一方で、他者の意見を聞くことや、意見交換自体を楽しんでいたことがわかる。

◎アンケート集計表

意見交換会参加者アンケート

何をするために集まったのかわかった

	1	2	3	4	5	未記入
模擬	0	0	5	7	5	0
第1回	0	0	4	6	7	0
第2回	0	0	4	4	8	0
第3回	0	0	4	4	6	2
第4回	0	0	2	5	5	3
第5回	0	0	1	5	7	1

地域包括ケアを理解できた

	1	2	3	4	5	未記入
模擬	0	0	10	2	5	0
第1回	0	1	10	5	1	0
第2回	0	0	9	3	4	0
第3回	0	0	2	7	4	3
第4回	0	0	2	5	5	3
第5回	0	0	4	6	3	1

うまく話せるか不安があった

	1	2	3	4	5	未記入
模擬	1	2	8	3	3	0
第1回	1	1	10	4	1	0
第2回	1	1	7	4	1	2
第3回	1	1	7	3	1	3
第4回	0	1	7	3	2	2
第5回	0	1	7	3	2	1

自分の思いを話すことができた

	1	2	3	4	5	未記入
模擬	1	0	9	3	4	0
第1回	1	1	8	5	2	0
第2回	0	1	6	6	2	1
第3回	0	1	6	5	2	2
第4回	0	1	6	5	1	2
第5回	0	0	7	3	3	1

もっと話したかった

	1	2	3	4	5	未記入
模擬	1	2	8	4	2	0
第1回	1	2	10	2	2	0
第2回	3	2	6	3	2	0
第3回	1	2	7	3	0	3
第4回	0	1	2	6	4	2
第5回	1	3	5	2	2	1

他の参加者の意見が聞いてよかった

	1	2	3	4	5	未記入
模擬	0	0	4	5	8	0
第1回	0	0	3	6	7	1
第2回	0	0	4	5	6	1
第3回	0	1	5	3	5	2
第4回	0	1	2	5	5	2
第5回	0	0	4	4	5	1

地域の現状と課題を再確認できた

	1	2	3	4	5	未記入
第1回	0	0	1	8	7	1
第2回	0	1	4	6	5	0
第3回	0	0	4	6	4	2
第4回	0	0	6	3	4	2
第5回	0	0	2	6	5	1

地域での取り組み・めざす姿をイメージできた

	1	2	3	4	5	未記入
第1回	0	2	4	8	3	0
第2回	0	1	6	5	4	0
第3回	0	0	5	3	5	3
第4回	1	0	3	6	3	2
第5回	0	0	1	9	3	1

意見交換は楽しいと思った

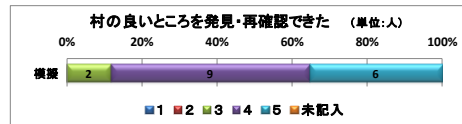
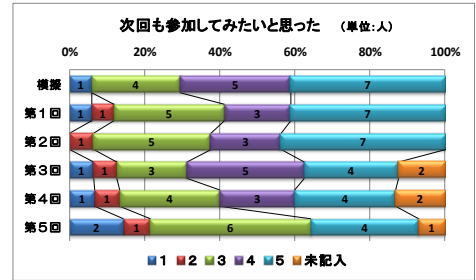
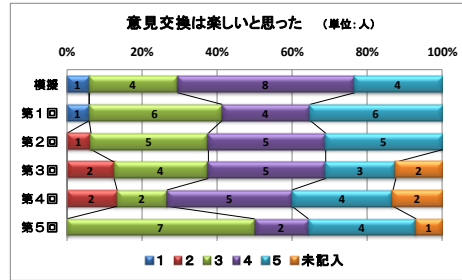
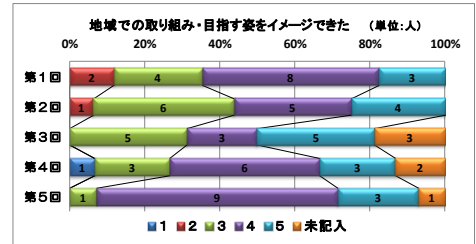
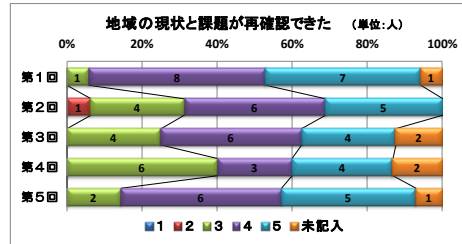
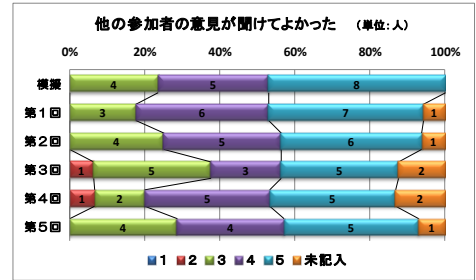
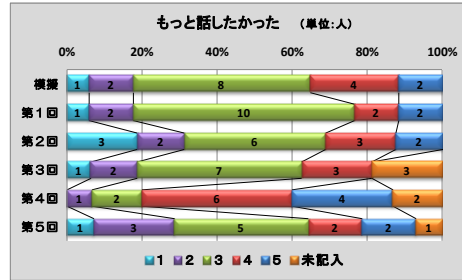
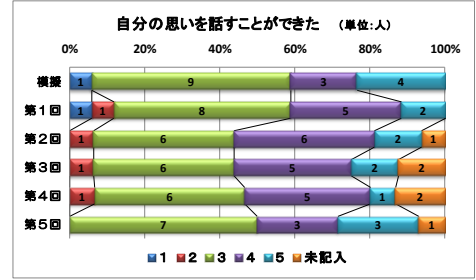
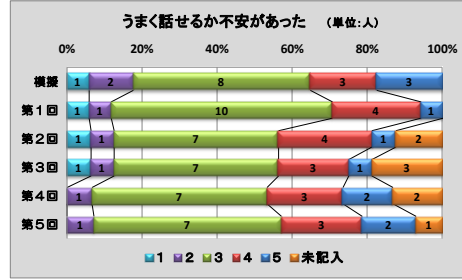
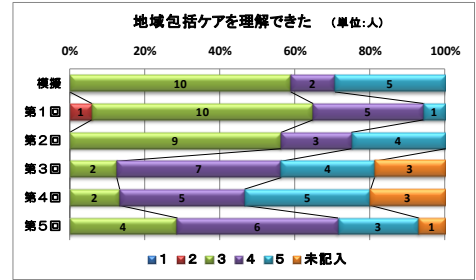
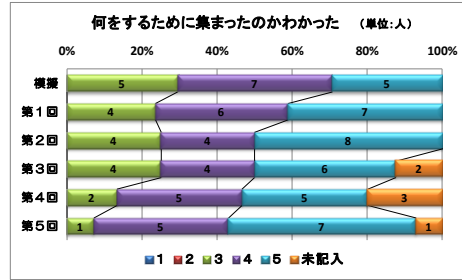
	1	2	3	4	5	未記入
模擬	1	0	4	8	4	0
第1回	1	0	6	4	6	0
第2回	0	1	5	5	5	0
第3回	0	2	4	5	3	2
第4回	0	2	2	5	4	2
第5回	0	0	7	2	4	1

次回も参加してみたいと思った

	1	2	3	4	5	未記入
模擬	1	0	4	5	7	0
第1回	1	1	5	3	7	0
第2回	0	1	5	3	7	0
第3回	1	1	3	5	4	2
第4回	1	1	4	3	4	2
第5回	2	1	6	4	1	1

村の良いところを発見・再確認できた

	1	2	3	4	5	未記入
模擬	0	0	2	9	6	0



◎アンケート用紙

意見交換会参加者アンケート（模擬）

	低 ←————→ 高				
何をするために集まったのかわかった	1	2	3	4	5
地域包括ケアを理解できた	1	2	3	4	5
うまく話せるか不安があった	1	2	3	4	5
自分の思いを話すことができた	1	2	3	4	5
もっと話したかった	1	2	3	4	5
他の参加者の意見が聞けてよかった	1	2	3	4	5
村の良いところを発見・再確認できた	1	2	3	4	5
意見交換は楽しいと思った	1	2	3	4	5
次回も参加してみたいと思った	1	2	3	4	5

ありがとうございました

意見交換会参加者アンケート（第1～5回）

	低 ←————→ 高				
何をするために集まったのかわかった	1	2	3	4	5
地域包括ケアを理解できた	1	2	3	4	5
うまく話せるか不安があった	1	2	3	4	5
自分の思いを話すことができた	1	2	3	4	5
もっと話したかった	1	2	3	4	5
他の参加者の意見が聞けてよかった	1	2	3	4	5
地域の現状と課題を再確認できた	1	2	3	4	5
地域での取り組み・めざす姿をイメージできた	1	2	3	4	5
意見交換は楽しいと思った	1	2	3	4	5
次回も参加してみたいと思った	1	2	3	4	5

ありがとうございました

○住民参加型意見交換会職員アンケート結果

『安心して暮らせる地域作りシート』を利用した住民参加型意見交換会参加職員の意識の変化を比較。

◎アンケートの方法

アンケート用紙保を渡し、意見交換会終了後、記入してもらう形式で実施

◎アンケート期間

平成24年9月4日～平成24年11月14日（全6回）

意見交換会テーマ

模 擬 語ろう、赤井川村自慢！！

第1回 高齢者の元気で楽しい生活（介護予防・居場所）について

第2回 住まいの確保について

第3回 生活支援・在宅サービスの確保について

第4回 相談体制の確保について

第5回 高齢者の実態把握について

◎アンケート対象者数

各回出席者5名～7名（参加対象者9名）

◎アンケートの目的

地域住民と一緒に意見交換会を経験した職員の意識の変化を比較。

◎アンケート項目

すべて5段階で記入（低1～高5）

- ・地域包括ケアの理解度
- ・意見交換の経験・手際
- ・企画・運営の労力
- ・うまくいくか不安感
- ・気持ちの前向きさ
- ・意見や発想の柔軟性
- ・取組への着手・実行性
- ・他団体等との連携
- ・達成感
- ・業務へのモチベーション

◎アンケート結果

地域包括ケアの理解度 71.4% → 50.0%

気持ちの前向きさ 57.1% → 50.0%

取組みへの着手・実行性 14.3% → 66.7%

他団体等との連帯感 42.9% → 83.3%

達成感 85.7% → 33.3%

業務へのモチベーション 71.4% → 33.3%

（詳細はアンケート集計表を参照のこと）

各回のテーマによって、話しやすさや、意見の出やすさに違いがあり、手際や労力、不安感は回によってバラツキが出た。

「気持ちの前向きさ」「達成感」「業務へのモチベーション」などは、当初からポジティブな意見が多かったが、回を重ねたことでの慣れが生じ、『3』の選択へと繋がったと推測される。

「他団体等との連携」については、回を重ねる毎にポジティブな回答となった。

「取組みへの着手・実行性」は、回を重ねるにつれ、参加者からの意見の変化などもあり、より具体的な取組みがイメージ可能となったことで、ポジティブな回答へとつながったと推測される。

◎アンケート集計表

意見交換会職員アンケート

地域包括ケアの理解度

	1	2	3	4	5	未記入	
模擬	0	2	0	3	2	0	7
第1回	0	1	1	4	1	0	7
第2回	0	0	4	3	0	0	7
第3回	0	0	3	3	0	1	7
第4回	0	2	1	2	0	0	5
第5回	0	0	3	3	0	0	6

意見交換の経験・手際

	1	2	3	4	5	未記入	
模擬	0	2	5	0	0	0	7
第1回	0	0	5	2	0	0	7
第2回	0	1	3	2	1	0	7
第3回	0	1	0	5	1	0	7
第4回	0	0	3	2	0	0	5
第5回	0	1	5	0	0	0	6

企画・運営の労力

	1	2	3	4	5	未記入	
模擬	0	0	6	1	0	0	7
第1回	0	0	3	4	0	0	7
第2回	0	1	2	3	1	0	7
第3回	0	1	2	3	1	0	7
第4回	0	2	2	1	0	0	5
第5回	0	0	5	1	0	0	6

うまくいか不安感

	1	2	3	4	5	未記入	
模擬	0	0	6	1	0	0	7
第1回	1	1	2	3	0	0	7
第2回	0	2	4	1	0	0	7
第3回	0	1	4	2	0	0	7
第4回	0	0	3	1	1	0	5
第5回	0	0	5	1	0	0	6

気持ちの向きき

	1	2	3	4	5	未記入	
模擬	0	0	2	4	0	1	7
第1回	0	0	0	6	1	0	7
第2回	0	1	0	5	1	0	7
第3回	1	0	0	6	0	0	7
第4回	0	1	1	2	1	0	5
第5回	0	1	2	3	0	0	6

意見や発想の柔軟性

	1	2	3	4	5	未記入	
模擬	0	0	5	2	0	0	7
第1回	0	0	3	4	0	0	7
第2回	0	0	3	3	1	0	7
第3回	0	0	2	4	1	0	7
第4回	0	0	3	1	1	0	5
第5回	0	0	5	1	0	0	6

取組への着手・実行性

	1	2	3	4	5	未記入	
模擬	1	0	5	1	0	0	7
第1回	0	0	6	1	0	0	7
第2回	0	1	4	2	0	0	7
第3回	0	0	4	3	0	0	7
第4回	0	0	4	0	1	0	5
第5回	0	0	2	3	1	0	6

他団体等との連携

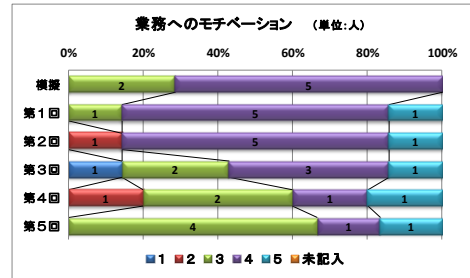
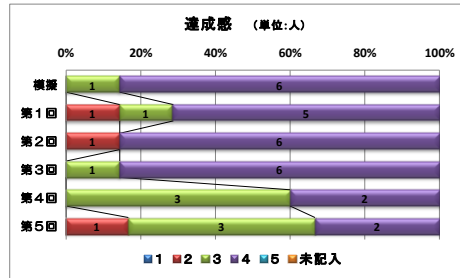
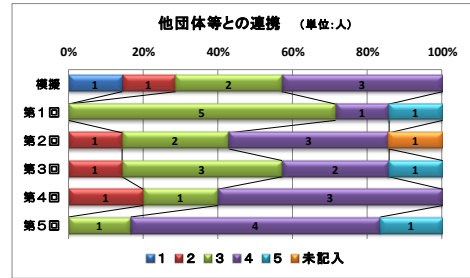
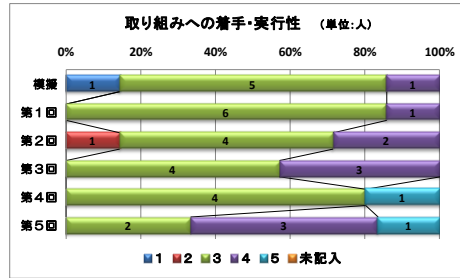
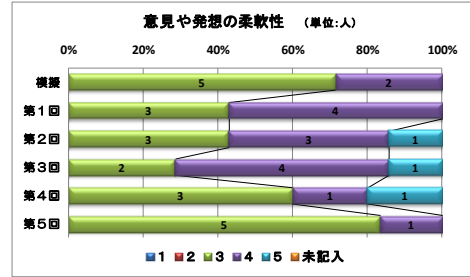
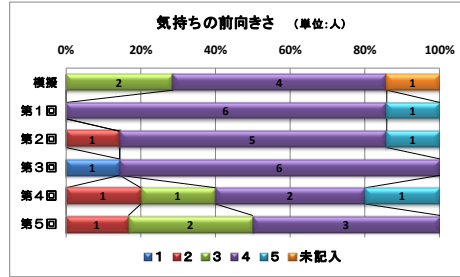
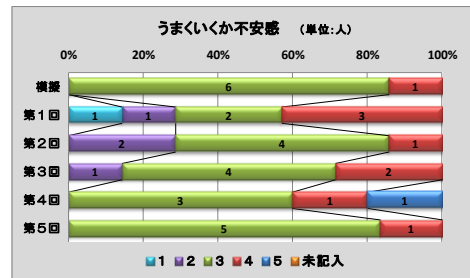
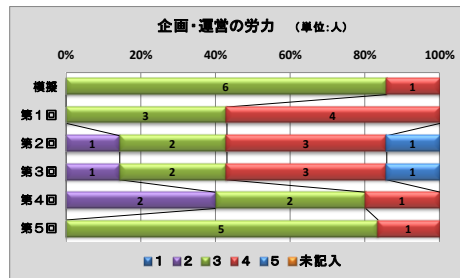
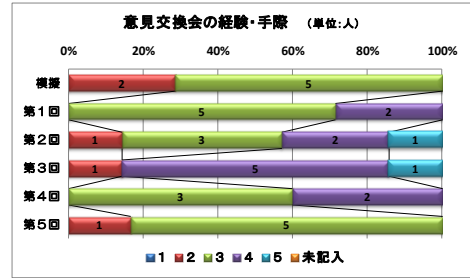
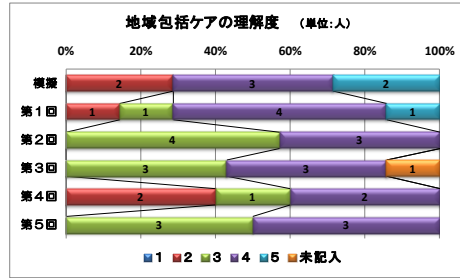
	1	2	3	4	5	未記入	
模擬	1	1	2	3	0	0	7
第1回	0	0	5	1	1	0	7
第2回	0	1	2	3	0	1	7
第3回	0	1	3	2	1	0	7
第4回	0	1	1	3	0	0	5
第5回	0	0	1	4	1	0	6

達成感

	1	2	3	4	5	未記入	
模擬	0	0	1	6	0	0	7
第1回	0	1	1	5	0	0	7
第2回	0	1	0	6	0	0	7
第3回	0	0	0	1	6	0	7
第4回	0	0	3	2	0	0	5
第5回	0	1	3	2	0	0	6

業務へのモチベーション

	1	2	3	4	5	未記入	
模擬	0	0	2	5	0	0	7
第1回	0	0	1	5	1	0	7
第2回	0	1	0	5	1	0	7
第3回	1	0	2	3	1	0	7
第4回	0	1	2	1	1	0	5
第5回	0	0	4	1	1	0	6



◎アンケート用紙

意見交換会参加者アンケート（模擬～第5回）

	低	←—————→			高
何をするために集まったのかわかった	1	2	3	4	5
地域包括ケアを理解できた	1	2	3	4	5
うまく話せるか不安があった	1	2	3	4	5
自分の思いを話すことができた	1	2	3	4	5
もっと話したかった	1	2	3	4	5
他の参加者の意見が聞けてよかった	1	2	3	4	5
村の良いところを発見・再確認できた	1	2	3	4	5
意見交換は楽しいと思った	1	2	3	4	5
次回も参加してみたいと思った	1	2	3	4	5

ありがとうございました

○住民参加型高齢者生活支援等推進事業計画書

事業内容

(1) 住民参加型地域づくり推進事業

① コーディネーターの配置

配置期間	平成24年 6月 1日 ~ 平成25年 3月31日
職 種	一般行政職
活動内容	「地域住民との協働による安心して暮らせる地域づくりガイドブック」を活用し、関係機関や各団体との調整や、住民が参加する意見交換会の周知・開催を行い、意見交換会から出された地域の課題や意見などを整理して、今後の施策を検討する。 また、実施状況や検討結果などを住民へ周知すると共に、後志管内地域包括支援センター職員意見交換会において、近隣自治体への普及に努める。

② 関係機関との事前検討及び住民等への周知

事前検討会議	2回	
予定する関係機関	赤井川村（赤井川村地域包括支援センター）、赤井川村社会福祉協議会、赤井川村高齢者保健福祉計画推進委員会、赤井川村健康づくり推進協議会、後志総合振興局 等	
住民説明会議	開催箇所数	1箇所
	開催回数（延べ回数）	1回
その他の周知方法	広報あかいがわ、資料の配布	

③ 住民等との意見交換会などの開催

意見交換会 実施予定回数	開催箇所数	1箇所
	開催回数（延べ回数）	5回
意見交換会 対象者	【具体的に記載のこと 例）住民、民生委員、社協・・・等】 住民、民生委員、社協、老人クラブ、保健推進員、食生活改善推進委員会、配食ボランティアの会、サークルひまわり、カルデラクラブ、農業元気グループ Together、シニアエンジョイクラブ、グループホームあまらんず、商工会	
想定する 協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の介護予防や居場所づくりなどに関すること ・高齢者の住まいの確保に関すること ・見守り支援、買い物支援など生活支援サービスに関すること ・高齢者の相談体制の確保に関すること ・高齢者の実態把握に関すること 	

④ 今後の施策等検討及び住民等への報告

関係機関等との検討会議	1回	
住民結果報告会	開催箇所数	1箇所
	開催回数（延べ回数）	1回
その他の報告方法	広報あかいがわ、成果品の配布	

(2) 広域市町村連携事業

近隣市町村との情報交換会議	1回
参加市町村数	20市町村
会議等の開催方法等	後志管内地域包括支援センター意見交換会を活用する。

(3) 本事業を実施することにより期待できる効果等

「地域づくりガイドブック」を活用することで、高齢者保健福祉計画・おもいやりビジョンの具体的施策化ができる。その結果、住民主体の地域づくりの取り組みが推進され、住民が安心して暮らせるための環境整備が図られる。また、住民と行政の信頼関係の構築がされ、行政職員自身の業務に対するモチベーションの向上にもつながり、住民とともにすすめる「地域包括ケア」の推進が図られる。
--

住民参加型高齢者支援等推進事業
住民参加型意見交換会結果報告

平成25年3月

発行 赤井川村
〒046-0501
北海道余市郡赤井川村字赤井川318番地1
赤井川村健康支援センター
電話 (0135) 35-2050
編集 赤井川村社会課